

認知症になっても  
安心して暮らせる町を目指して

「認知症の介護と家族の会」講演会を開催しました

3月30日（火）に伯耆町「障がい老人をささえる家族の会」代表大森 紀子氏を迎えて、認知症の方を介護している家族の会の役割と取り組みについて講演をしていただきました。（一部を抜粋して紹介します）



家族会としての役割

【思いをわかってもらえる】

家族の会は、家族がつどって「普段着の言葉」で安心して気持ちを言い合え、弱音を言える場所です。話をすることで家族の気持ちにゆとりができること、認知症の方の表情も良くなります。

【将来の不安の緩和】

介護者には「これから先どうなるのか」という不安がいつもあります。家族の会で介護経験者の話

【家族だからできること、

家族だからできないこと】

家族だから今までの人生や生活をよく知っています。たくさん良いところを知っていますので、支えることができます。

一方で、家族だから許せないこと、できないことにイライラすることがあります。毎日一緒にいるから我慢ができないこともあります。

家族だからできることを大切に、出来ないところは無理しないで他に任せてもいいと思います。

家族・地域への願い

【知ってもらおうと安心する】

介護は一人ではできません。自分以外の家族が大変さを理解してくれ、近所の人認知症のことを知っていてくれるだけでほっとすることが出来ます。

【家族を支えてほしい】

認知症の介護の課題は

- ① 介護者以外の家族の理解が足りないこと
- ② 介護者が頑張りすぎてしまうこと
- ③ 近所の人は気づいていても、『他の家のことには口をだせない』と一歩引いてしまふこと

これらの課題を解決するために、町や福祉サービスが家族を支える取組みが必要です。



講演会の様子より

講演会に参加された方からは「気持ちを話せる、聞いてもらえる機会がある事が嬉しい」「介護の本に書いてあるようなことよりも、生活に沿ったアドバイスが嬉しい」などの意見が聞かれました。

講演後は参加された方にそれぞれの思いを時間切れになるまで話していただきました。

南部町の取組み

・南部町では今年度より「家族のつどい」を毎月開催します。申し込みは不要ですのでお気軽にご参加ください。

・地域の認知症への理解を深めるため、認知症の出前講座を開催しています。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

南部町健康福祉課（頼田）まで

お願いします。

（連絡先） 66-5524